

## 編集委員が選んだ本

### 『豊かさの条件』

暉峻淑子著、岩波新書、2003年5月、740円  
今、学校の現場には、どこか狂ったものが、大手を振って押しつけられたりしている。中学の調査書で、態度まで点数化されることなどその一例だろう。しかし我々教員も、多忙な日常に追いたてられる中で、生徒の声なき悲鳴に耳を傾ける余裕や感性が、失われつつあるのではないだろうか。ドイツの授業のようす、社会人への手厚い職業教育など、目からウロコ。そして、競争ではなく助け合う中で生き生きするNGOの学生の姿にご注目。

### 『資本主義は存続できるか』

久留岡健著、大月書店、2003年2月、1800円  
なぜ、経済は成長し続けなければならないのだろうか。利子をとらないイスラムの銀行とか、つつましい中での心豊かな生活とか、幸せの質の考察のなかでこの本に出会った。世界経済を支えるアメリカの過剰消費—京都議定書批准拒否の理由。市場のいきづまりを“生き残り”をかけたさらなる競争で突破しようという今の動向の未来は？また、経済成長がなくても持続可能な社会をつくるには、何が変わらなくてはならないか？示唆に富む書。

### 『ことばを鍛えるイギリスの学校…国語教育で何ができるのか』

山本麻子著、岩波書店、2003年4月、2000円  
イギリスの教育の最終目標は「独立して考えられるようになること」である。子供は「話す事で学び、話す事で思考を発展させる」。そのための道具として、ことばの教育が重視されている。親としての観察を含めてその実態を描く。言葉の学習や表現の訓練を欠いた日本語教育との差は大きい。

### 『戦争中毒…アメリカが軍国主義を脱け出せない本当の理由』

J・アンドレアス著、合同出版、2002年10月、1300円  
漫画で描くアメリカ合州国の侵略の歴史。神がかりのmanifest destinyによるインディアンへの虐殺、中南米への介入、湾岸戦争、コンボ、9・11後の対テロ戦争まで、その真の目的とマスコミの役割も考える。いかに「戦争中毒」が高価で、合州国国民と世界の人々を苦しめているかを、事実や証言を元に詳しく示している。同じ出版社の『戦争をしなくてすむ世界をつくる30の方法』平和をつくる17人著（03年8月）もある。

### 『若草の市民たち』1仲間たちとともに・2仕組みをつくる

C. ブラコニエ著、信山社、2003年5月、各1400円  
フランスの小学生用に書かれた絵本。といっても絵は少ないが。中学1年のアデルと小学5年のサイード（アルジェリア系2世）の文通の形式で書かれている。国籍・フランス革命・人権・子どもの権利条約・植民地支配・帝国主義・植民地独立運動等、民主主義の基本的な考え方・権利とその歴史が理解できるようになっている。

### 『窒息するオフィス…仕事に強迫されるアメリカ人』

J・フレイザー著、岩波書店、2003年6月、2300円  
合州国に比べて、日本のホワイトカラーの生産性の低さが問題になっている。90年代以降、合州国でおきているリストラ・長時間労働・年金や医療の削減など、主にホワイトカラー労働の変化を、インタビューで描く。労働者の12%は週49～50時間、8.5%は60時間以上働いているという。日本の先行例として一読の価値がある。

### 『天皇家の財布』

森暢平著、新潮新書、2003年6月、680円  
情報公開制度を使って皇室経済を分析した労作で、皇室経済の問題点が浮かび上がる。皇居の水道代約932万円（2001年5月分）、電気代約841万円（同）、ガス代約340万円（同）、テレビ受信料約179万円（同1年分）、御璽用の「朱肉」約30万円。生活費を含む天皇家6人の私的費用「内廷費」年3億2400万円。皇室の公的活動に使われる「宮廷費」の68%は土木・建築費、晩餐会で使う魚と野菜は築地から購入・・・など。「象徴天皇制と国民主権」を考える授業づくりに生かしたい。

### 『反戦の世界史』

松竹伸幸著、新日本出版社、2003年5月、2200円  
広範な反戦運動を踏みにじりながらイラク戦争を強行した米英国。そして日本などそれを支持・支援した政府。「暴力には暴力で対抗」「自衛のためには先制攻撃も辞さない」などといった乱暴政治家が多く目につくが、それは「歴史に学ばない」貧困な発想に基づいている（もちろん本音は私利私欲にあるが）。本書は、「戦争を食い止めよう」とした人々の運動の歴史こそが、「平和を生み出す」国際法を整備してきたことを明らかにしている。現在にこそ活用したい1冊である。

### 『〈民が代〉 斉唱—アイデンティティ・国民国家・ジェンダー』

鄭映恵著、岩波書店、2003年8月  
近代国民国家は、女性や高齢者、外国人をマイノリティとして分断し続けてきた。となれば、ポスト国民国家は、そのような境界を越えた、人々の共同性をいかに作り上げるかにかかってくる。〈民が代〉はどうすれば実現できるのだろうか。

### 『戦時下の日本映画—人々は国策映画を見たか』

古川隆久著、吉川弘文館、2003年2月  
戦時下、情報を統制するために最大の娯楽であった映画を国家が管理し、思想を統制したといわれている。しかし実際は、国策映画には人気がなく、エノケンなどが活躍する娯楽映画が民衆の支持をえていたことが明らかにされている。戦争とプロパガンダの問題を考える好著。

定価 210円（本体200円） 編修・発行 実教出版株式会社 代表者 本郷 充

2004年2月15日 印刷 発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5

2004年2月20日 発行 Tel.03-3238-7777 <http://www.jikkkyo.co.jp/>